

令和5年度 部局経営目標

年度	令和5年度	作成日	令和5年4月1日
部局名	湯原振興局	部局長名	河島 賢治
(1) 部局の役割・使命（ミッション）・経営方針			
<p>1 災害に強いまちづくり【No.11：住み続けられるまちづくりを】 市民の安心安全な暮らしを守るため関係機関・団体と連携を密にし、地域防災意識の向上と地域連携を図り、地域防災力の強化を図ります。</p> <p>2 生涯を通じた健康づくりの推進【No.3：すべての人に健康と福祉を】 持続可能な地域社会を実現するための基本となる健康づくりに、各団体等との連携を図りながら取り組みます。</p> <p>3 地域の強みを活かした地域振興【No.11：住み続けられるまちづくりを】 歴史、文化、風土、景観など地域の強みを活かした市民主体の振興事業や特産品を活用した商品開発などの地域内経済循環を推進し、豊かで自立した農山村の実現及び来訪者・関係人口の増加を目指します。</p> <p>4 移住・定住の促進【No.11：住み続けられるまちづくりを】 移住者や関係人口獲得など、持続可能なまちづくりを目指す地域団体等の活動を支援します。</p> <p>5 生み育てやすい環境づくり【No.3：すべての人に健康と福祉を】 安心して子育てができる環境を確保するためライフスタイルにあわせた支援をおこないます。</p> <p>6 地域の文化力の向上【No.4：質の高い教育をみんなに】 自然・民俗の歴史を次世代に伝えるために蓄積するとともに、新たな文化及び芸術の創造に取り組み、心豊かな地域を目指します。</p> <p>7 スポーツや文化を楽しめる環境づくりと交流促進及び地域振興【No.4：質の高い教育をみんなに】 誰もが気軽にスポーツや芸術・文化に触れる機会を提供し、自主的な市民の参加と関心を高めます。</p> <p>8 行政財産の有効活用【No.12：つくる責任つかう責任】 市民の共有財産である「行政財産・公共施設」について、一層の有効活用のため、地元の意向を把握しながら、管理運営形態や複合的な利用手法を検討します。また、地元協議やHP等での情報発信も積極的に実施します。</p>			
(2) 事業成果目標			指標名及び目標値
<p>1-1 自主防災組織の強化 ・組織化された自主防災組織の機能強化と災害時における取り決め状況を把握するため現地確認を行い、防災マップとの整合性を図ります。各自治会のヒアリングを実施しながら顔の見える関係をつくり、災害時における各団体（消防・防災組織・自治会・区・医療）の連携強化を図り、きめ細かな対応を実施します。（3年計画の3年目 現在：46自治会／全73自治会）</p>			指標:自治会のヒアリング数
			目標値:27自治会
			(令和4年度実績値：30自治会)

<p>2-1 健康づくりのための実践活動支援</p> <p>①糖尿病予防や健康寿命の延伸を目的として、定期的に運動をする機会（プログラムと場所）を提供し、併せて地域が主体的、継続的に取り組めるようフォローアップを行い、参加者の増加に努めます。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・第5期まんぼジム（ウォーキングやスクワット） <目標参加者数 75回×6人＝450人> ・貯筋体操 <目標参加者4回×15人＝60人> <p>②フレイル予防や筋力アップを図り、健康寿命の延伸を目指します。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ユニバーサルスポーツ教室（ポッチャ、モルック） <目標参加者数 3回×10人＝30人> <p>③地域で開催する健康体操に、愛育・栄養委員の関わりを持って支援します。</p> <p><目標参加者数 5回×15人＝75人></p> <p>※上記を実践して、健康づくり実践者数（参加者数）を増やします。</p> <p>④生活支援コーディネーターや真庭市地域包括支援センター、社会福祉協議会等と連携し、地域住民が自主的な活動として「集いの場」を開始できるように支援します。</p> <p><目標働きかけする団体数 2団体></p>	<p>指標:①参加者数 ②集いの場働きかけ団体数</p> <p>目標値:①615人 ② 2団体</p> <p>(令和4年度実績値:①参加者数721人 ②集いの場働きかけ団体数2団体)</p>
<p>3-1 地域振興事業（社地区）</p> <p>社地域振興協議会が行う、社の歴史資源を活用した地域づくりを支援します。</p> <p>①社の歴史資源を広報・再確認</p> <ul style="list-style-type: none"> ・歴史や棚田景観に関心があり、社の応援団となってもらえる方を増やすため、景観をテーマにした継続的なシンポジウムの開催 <目標実施数 シンポジウム×1回> <p>②社棚田が「つなぐ棚田遺産」に認定されたことにより、地域の「景観」について関心が高まっている。蒜山郷土博物館と連携して、歴史の伝承や景観維持のための勉強会を開催</p> <p><目標実施数 勉強会×3回></p> <p>③グリーンスローモビリティの活用</p> <ul style="list-style-type: none"> ・歴史ガイドの開催 <目標実施数 15回> <p>④地域と都市部の交流イベント（交流施設の改修、秋祭りの神輿担ぎ、歴史体験交流、竹灯籠イベントなど）を通して特産品の活用を促進する。（やしもちの販路拡大、竹の活用ほか）</p> <p><目標実施数 交流イベント×4回></p>	<p>指標:①シンポジウム開催数 ②勉強会開催数 ③歴史ガイド実施数 ④交流イベント回数</p> <p>目標値:①1回 ②3回 ③15回 ④4回</p> <p>(令和4年度実績値:①シンポジウム開催数1回 ②勉強会開催2回 ③歴史ガイド実施数 15回 ④交流イベント6回)</p>

<p>4-1 地域振興事業（二川地区） 二川みらいづくりセンターを拠点とした、住民の裁量による地域運営の幅を徐々に広げていき、真庭に新しい形の「自治」を生みだします。</p> <p>①大学と連携した施設の活用方法や、地域の皆さんとのつながりづくりの学びの場を開催 <目標回数 3回></p> <p>②学校らしさを生かした学びのコンテンツを盛り込んだワークショップや子ども教室を開催 <目標回数 4回></p> <p>③地域内での課題解決を図る世代を超えた集まりや話ある場づくり <目標回数 勉強会3回></p> <p>※上記を実践して、二川地域内のつながりづくりと多方面からの交流人口を増やします。</p> <p>【二川みらいづくりセンターはこんな場所】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・行政の縦割りに左右されず、住民がやりたいことを実現できる場 ・老若男女問わず、住民が日常的に集まり、自主的な活動ができる場 ・地域を維持させていくために必要な経済を生みだせる場 ・さまざまな価値観が生まれていく場 <p>※新しい形の自治を生み出すことで、地域内から移住者やUターン者の必要性に気づき、これまでの目標であった「移住・定住（空き家活用含む）」の取り組みにつなげていく。</p>	<p>指標:施設の利用者数</p> <p>目標値:4,000人</p> <p>(令和4年度実績値:5,047人)</p>
<p>5-1 「生むこと・育てることを支援 「湯原ふれあいセンター」や「つどいの広場」を活用し、多世代が交流できる憩いの場づくりとして、子育て支援についての研修会等を開催します。</p> <p>①子育て世代が集うイベントを開催（子育て関係、図書館関係等） <目標 子育て世代の参加者数 1,800人></p> <p>②親子クラブ、愛育委員、栄養委員の三部合同による子育てサロンを開催</p>	<p>指標:子育て世代の参加者数</p> <p>目標値:1,800人</p> <p>指標変更 (令和4年度実績値:①講演会1回 ②子育て世代の参加者数1,954人)</p>
<p>6-1 図書館の利活用促進と学びの場づくりの推進 図書館は情報の集積拠点というだけでなく、人が集い語らう場所として生涯学習関連の事業を進めています。また、湯原学園（湯原小・中学校）ではコミュニティスクールが始まっています。地域と連携し、子どもの可能性を最大限伸ばせるよう「地域とともにある学校づくり」の支援を進めます。</p> <p>①公民館講座・各種生涯学習講座の開催（オオサンショウウオの活用含む） <目標回数 3回></p> <p>②文化伝承事業の開催 <目標回数 1回></p> <p>③子どもの居場所づくり事業の開催 <目標回数 2回></p> <p>④地域学校協働活動の事業開催 <目標回数 3回></p> <p>※上記を実践して、生涯学習に携わる参加人数を増やします。</p>	<p>指標:参加人数</p> <p>目標値:120人</p> <p>新規 (令和4年度実績値:109人)</p>

<p>7-1 湯原クライミングセンターの利用促進 湯原にあるクライミング施設の利用促進を図っていきます。岡山県山岳・スポーツクライミング連盟やアスリート等と連携協力して、初心者対象の体験会や一定の経験者を対象にした技術講習等の開催を定着化していきます。</p> <p>・クライミング体験会等の開催 <①目標回数 3回> <②目標施設利用者数 6,500人></p>	<p>指標:①体験会等の開催数 ②施設利用者数</p> <p>目標値:① 3回 ②6,500人</p> <p>新規 (令和4年度実績値:① 1回 ②4,530人)</p>
<p>8-1 管内公共施設の有効活用及び効率的運営の推進(活動と居場所が混ざり合う新しい「まちの居間」活用) 湯原ふれあいセンターを、湯原地区のみでなく真庭市民に愛される公共施設に育てていきます。また、湯原温泉への誘客増に向けて湯原地域振興計画に沿い、関係団体との連携を深め、一体的な魅力向上に取り組み、湯原温泉宿泊客を増やします。また、ひまわり館・RVパーク・まんが館との連携を図り、自然や動物と親しむ場、アウトドアやキャンプなど、施設宿泊とは違うターゲット層につながる魅力を高めていきます。 ※湯原の里振興プロジェクトで、湯原のみでなく蒜山や勝山との連携についてアイデアを出し合い事業を実施していきます。</p> <p>①子どもから大人まで、さまざまな世代が参加できるイベントを開催 ②湯原観光協会、湯原町旅館組合と連携し、マルシェ等のイベントを開催 ③ふれあいセンター、はんざきセンター、はんざきねぶた倉庫、湯っ足り広場を一体とし、さらには湯原温泉街を回遊できる仕組みを構築</p>	<p>指標:①宿泊客数(入湯税) ②湯原ふれあいセンター延べ利用者数</p> <p>目標値:①110,000人 ②6,000人</p> <p>(令和4年度実績値:① 96,849 ②4,458人)</p>
<p>8-2 温泉施設の有効活用 湯本温泉館・下湯原温泉(ひまわり館)・足温泉館の連携を図り、日帰り入浴から湯原地区の観光誘客(入浴・お土産・食事)につなげるとともに、コロナ感染症収束後の安定した流動人口を確保する仕組みを作ります。</p> <p>①日帰り温泉3施設の統一した広報 ②湯本温泉館テレワーク施設(Office)の広報 <目標利用者数 650人> ③下湯原温泉の指定管理者との深い連携 ・年間のイベントスケジュールの計画や、協力団体との連携を進める ④湯本・足温泉館の湯原にふさわしい運営の在り方を協議 ・従業員との対話を重ね、良いアイデアを実践する ・湯原観光関係者へ経営状況の説明 ・温泉施設の指定管理に向けた検討 ⑤市が運営する3施設と、湯原温泉宿泊施設との連携 ・温泉旅館宿泊前後の日帰り温泉施設への誘導</p>	<p>指標:単年度収益的収支比率(収益÷費用)</p> <p>目標値:①湯本温泉館 78% ②足温泉館 89%</p> <p>(令和4年度実績値:①湯本温泉館 73% ②足温泉館 83%)</p>